DEC. 27 1997
宮城県壮年テニス連盟
会報 第24号

★★★★★寅歳への抱負★★★★★

委員長　伊藤　一利

東北マスターズテニス大会の主管という仕事が加わりましたので、平成９年度は役員の皆さんにとってはかなり忙しい年であったと思いますが、恒例の行事を含め素晴らしい活動振りでありましたことをご報告申し上げるとともに私からも感謝申し上げたいと思います。

先日の総会におきまして運営委員並びに幹事の方々のほぼ全員の留任が承認され、さらに強力な助っ人も加わりました。お蔭様で今年もこれで万全の運営体制が整いました。

行事の実施に当たっては、まず天候とのにらみ合いから始まります。週間予報で一喜一憂し、前日は何回となく空を眺めて明日の天候を占うことになります。本号にご寄稿の会員の方々も触れられておられるように、公営の屋内コートが皆無にちかく、大会予備日の確保もままならぬ屋外コート数の不足は、近々百万人を越えようとする政令都市仙台としては余りにも情けないと思いますし、一方、会場までの交通も不便で至遠な利府町に建設されようとしている県営のテニスコートも、すべてが屋外のハードコートと聞いては、何とも悲しい話ではありませんか。

何十年に一回しか巡ってこない国体などを契機とでもしない限り実現できない施設でしょうから、出来ること自体は嬉しいことに違いはありませんが、それだけに折角新設されても大会が終わったあと閑古鳥が啼くような施設では如何かと思います。恐らく県内に何千あるいは何万とますます裾野の広がりつつあるテニス愛好者が、どのような施設を望んでいるかを、自治体も為政者も是非とも刮目して貰いたいものです。

当連盟としても、折角役員の陣容を整えていただいたのでありますから、既往の行事の充実・新企画の検討に加え、上記の様な現状に対し何か出来ることはないものかと、運営委員・幹事の皆さんの叡知を結集して模索してみることも必要かと、寅歳を迎える抱負として考えているのですが…。会員の皆さんのご助言を切にご期待申し上げます。

どうか皆さん良いお年をお迎え下さい。

※※

==== 目次 ====

		P
★寅歳への抱負	委員長　伊藤　一利	1
★平成９年度総会報告	副委員長　中村　克宏	2
★第十回全国健康福祉祭山形大会に参加して	塩地　照	2
★只今委員修行中	長田　輝夫	3
★東北マスターズテニス大会報告	山内　宏	5
★東北マスターズテニス大会に参加して	北島　さと	5
★室内ダブルスを楽しむ会開催のお知らせ		5
★高齢者生きがい健康祭報告	長田　輝夫	6
★第一回グランドシニア大会に参加して	桜井ノリエ	6
★ねんりんピック'97山形に参加して	大和田章子	6
★長ラケットを使って	本間　満雄	7
★ねんりんピック'97山形に出場して	北野　寿一	8

==== 平成１０年度運営委員会構成 ====

委員長　伊藤　一利
副委員長　中村　克宏
運営委員　浅野隆朗　石垣晴子　長田輝夫　菅野義治　菅野志津子　酒井倭子　坂爪みや　佐藤勝子　首藤紀子　嶋田園子　高橋明子　舘内規之　山内　宏　和田美代子
幹　事　大賀延行　高橋龍夫　本間満雄

♦平成9年度総会報告♦

副委員長 中村　克宏

今年度総会は１２月６日、勾当台会館で懇親会に先立ち行われました。中村副委員長の司会でまず委員長から本年度の行事については極めて順調に行われたことの報告と謝意があり次いで、総会議題として「連盟規約の一部改正の件」の提案がなされた。提案内容は規約第５条を「『本会の事業年度は１２月１日に始まり１１月３０日に終わる』と改正」するというものであり、これは現行規約によれば定例の総会開催時期には当該事業年度が終了せず、相応する決算報告の作成が不可能となり、これにもとずく会計監査も支障を来たすからである。この点に関して審議され異議なく了承された。

次に副委員長から庶務報告として、会員状況が資料を基に紹介された。総数３１１名で、女子１３５名、男子１７６名であり、女子では５０～５９歳台、男子では５５～６４歳台が圧倒的に多いと報告された。

平成９年度諸行事実施報告、平成１０年度行事計画案については長田委員より資料に基づき示された。

平成９年度決算案、平成１０年度予算案について首藤委員より資料に基づいて説明があり、文中の一部転記ミスの訂正がなされたが了承された。次いで、平成９年度決算について、　平成９年１２月１日から平成１０年度１１月３０日までの監査が高橋（恒）、村上両氏によりなされ、内容が適正である旨の監査結果が報告された。

次年度運営委員について委員長から報告があり、委員長以下本年度の役員は全員留任、これに浅野隆朗、嶋田園子、和田美代子の三氏が新たに運営委員に加わることとなった。

総会参加者数は５０名を越え、和やかな雰囲気の中で無事終了した。

お詫び：総会において審議、承認されました平成９年度決算書および平成１０年度予算書を本欄に掲載する予定でありましたが紙面の都合により来４月発行予定の会報No.25に掲載させていただきますのでご了承願います。

※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※

♦第十回全国健康福祉祭山形大会に参加して♦

塩地　照

「すてきに輝け　ねんりん青春」のテーマで９月２０日から２３日まで４日間山形県の１９の市と町で２１種目の交流大会が行われました。

春、ご推薦をいただいた折、まだまだ未熟なテニスで参加させていただいてよいものなのか大変迷いました。遅まきですが昭和６１年からテニススクールで習っているいろいろの技が身に付いているか、どこまで発揮出来るのか自分を試すよいチャンスのように思いましたのでお引受いたしました。

９月１９日宮城県選手団は仙台東口より１３時出発。途中笹谷峠高速道路は雨と濃霧でしたが、山形県実行委員がチャーターして下さったバスで、運転手、ガイドさん共に道路に慣れておられるので安心しました。１９日は蔵王温泉泊です。明日の開会式の打ち合わせがあり、新参者の私は監督さん初め選手のみなさんとは初対面でした。３日間が楽しい思い出になるように心掛けなければと思いました。

２０日は天童総合運動公園にて総合開会式が行われます。昨日の天候とはうって変わり朝から澄んだ青空で絶好の総合開会式日和です。宮城県選手団約百二十名も緑色のウェアで正装し五十数番目に入場です。少々緊張気味ですがやはり来て良かった、体験させていただいて本当に幸運でした。１４時１５分会式終了。１４時４０分酒田に出発。バスに揺られること３時間余り、大会の会場となる酒田市に到着。日本海側まで来てしまいました。私は、酒田の大火以来です。

２１日試合当日。自由参加で早朝練習「５時～６時」をすることになり男性の方は全員練習に励んでおられました。私も２０分程ボールの感触を味わったら気持ちが楽になりました。9時１５分から光ケ丘コートに於いてテニス交流大会の開会式が行われ、その中で宮城県が「最高齢チーム賞」で特別表彰を受けました。思いもかけない喜ばしいことでした。

１０時試合開始です。都道府県、政令指定都市６０の団体が１５のブロックに分れて予選レーグ戦です。光ケ丘四ブロックは茨城県、北九州市、兵庫県、宮城県です。どちらの県の選手も強く、巧くみな試合運びはシニアのプレーとは思えなく、ただただ驚くばかりでした。結果は一勝もなく終わりました。しかし、男性の方は内容の濃い試合でよかったと思いました。「参加することに意義がある」と言われますがやはり勝てる試合が出来ることが今後の念願です。まだまだ未熟なテニスで申し訳なく思いました。

２２日は決勝トーナメント４位グループの試合は国体記念コートになり京都府と対戦です。三組とも悲願の一勝をかけプレーをしましたが残念に終わりました。始終暖かく見守って下さった監督さん、お世話役にまわって下さったいきいき財団の松野さん、選手の皆さんお世話になりました。２０日、２１日の宿「かんぽの郷酒田」では、仙台市選手の大和田さん、坂爪さんと同室でした。何かとご配慮をありがとうございました。貴重な体験をさせていただきましたことを心より感謝申し上げます。

♦只今委員修行中♦

競技担当主任　長田　輝夫

❖ 白羽の矢

今年度第７回委員会での席上、副委員長　中村克宏氏から、会報記載への原稿募集が各委員になされた。

浅学非才でペンを持つことが苦手な小生、職業もそれに準じ選択したのでひたすら膝元の畳を注視し視線を避けた。が、「お願いします」と声がかかってしまう。一の矢だ、「むむむ・・・まずい」早くお断りしなくてはと言葉を選んでいると、間髪を入れず二の矢、続いてきりりと絞り込まれた弦から三の矢が放たれ、ぐさりと射られてしまった。いつもタイミング良く適切なアドバイスを頂戴している先生、こちらの思考回路の速度まで全てお見通し、見事さに脱帽。諾々とお受けせざるを得なかった。

ちなみに白羽の矢とは、選ばれた人と犠牲者になること、併せて辞典に記述されていて納得できた。

❖ 寿山福海

むかし中国にあった長寿の国の伝説によれば、その国は大海のまん中にあって、そこでは長寿でない者は八百歳まで生き、長生きする人は”天地長久”に生き続けるといわれている。そんな国でテニスプレーをできたらどんなだろう、などと、お屠蘇気分に浮かれた日々からもう３６５日が過ぎようとしている。

❖ 千緒万端

日本テニス協会発行の定期誌に、委員長伊藤一利氏が執筆された『筆舌に尽くしがたい遺跡の美しさ』が記載され、このタイトルの基に諸行事スタートの合図となる。

かつて中国最西端都市”カシュガル”（新疆自治区）に香妃（薫沐を仮らず、清の乾隆帝を凛として霜雪の如く拒んだといわれている）の生誕地を訪ねたことと重なり幕開けは感無量であった。

室内ダブルスを楽しむ会

ポイントゲットと呼ぶハンディキャップ戦を採用。いつものことながら、すばらしいアイデアを創出される事務局幹事の高橋龍夫氏に感服してしまう。

この方式は、１ゲームは勿論、１ポイントも非常に大切にしなければならない厳しい対戦であるが、当日のパートナーと組合せで入賞者がどのようになるか、予測もできないところに、面白さがある。

厳しさを横目に委員の名を返上、”おんぶにだっこ”で選手として参加することができ、昼食は委員長のご令室伊藤久子様からの差し入れがあり、舌鼓を打つ。極楽☺極楽☺極楽☺、心から楽しい日を過ごすことができた。

年齢別大会

伺えば、当連盟の三大イベント。前回のように甘えてばかりでは申し訳ない、どの様に行動すべきか、幹事実績十年の同僚の大賀延行氏に相談をすると、「臨機応変に対応することが大切」と教えられた。

委員会の席では、事務局より参加申込者名が伝達され、申込数に応じた試合成立の確認と、単独で申込された方のパートナーの手配があった。

とまどっている小生を後目に、てきぱきと坂爪ミヤ、高橋明子、菅野志津子、酒井倭子、石垣晴子、首藤紀子、の各委員が電話連絡し、瞬く間に決まってしまった。

連絡をする方も受ける方もなんと寛大で寛容なのか、依然在籍した泉市の役員では考えられないことを平然とやってのける度量の大きさに驚いた。

予定した大会は当日雨、青葉山での開催となったが、前日の豪雨でグランドコンデションは最悪、欠席者５名、当日参加申込者が８名あり１クラスの追加、蒙昧な小生パニックに陥いる。幹事の大賀延行氏、委員の菅野義治氏と館内規之氏が代役を務めてくれ、また、役員一同の協力で時間内に終了する。身をもって「臨機応変に対応すること」を学習した。

しかし、参加された多くの方には不手際からご迷惑をおかけしてしまいました。この紙面をおかりしてお詫びいたします。まことに申し訳ありませんでした。せめてその償いも兼ね、もう少し委員の仕事をさせて下さい。

技量別大会

事務局が夏期休暇。いざという時アドバイスを受けることができない、「今度ミスを犯したら当連盟から除名されるかも」と、不安でしかたがなかった。

そんな気持ちで望んだ大会当日、快晴、欠席者無し、飛び入り参加者２名、準備したグッツは不要となり、全てが順調に運んだ。１組が４試合以上の対戦記録を残すこともでき、満足する結果が得られた。

帰宅後、役員一同の協力に感謝し、乾杯したビールが美味しかったことが印象的である。

月例会

確保が困難とのことで、対山形戦の名称で借り受けた会場。間違った日付けだったかと思われる参加者数。

天に勝手な雨 ♦♦ をお願いしたら叶えててくれた。会合は中止。発足当初、総会や大会運営も行われた実績があるが、参加者数が極端に減少し、企画の練り直しが必要と考える。

さて、驢鳴犬吠な記事に辟易したこととお察しいたしますが、もう少し、お付き合い下さい。
見える、聞こえる、話せる、と、テニスを通じた多くの方々に共通のメッセージを提供できた幸せを十分に噛みしめながら、本題に戻ります。

☞ 対いわきＶＴＣ親善試合

”今年の担当役はいわき、おまかせコースでいいのだ”と、勝手に思いこんでいたら、当方も参加者名簿の作成、宿泊の人数確認、双方の連絡、会費の徴収、会場までの案内状送付、交歓会、対戦組合せ、等々、沢山あった。手際よく幹事の本間満雄氏が孤軍奮闘し担当してくれ、「お客様待遇」で参加した。
ご苦労様、本当にありがとうございました。

☞ 東北マスターズ交流大会

「盤根錯節に逢いて利器を知る」、当連盟の力量が測られるこの大会開催に向け、委員長を中心に打ち合わせの綿密な会議が幾度も開かれた。
大会２日前の最終会議では、司令塔の委員長伊藤一利氏が自ら、プログラムとオーダ表、など、全ての印刷物の原稿を短期間に用意なされる。
各委員は尊敬する山内宏氏を筆頭に、受け持つ担当の再点検をする。宿泊や弁当などの交渉や手配を、菅野義治氏と本間満雄氏が奔走されたが、送迎バスの発車時刻の細部に至るまで再確認をする。
また、山内宏氏と高橋龍夫氏は、会場と本部の設置場所、予約支払い、メダルの個数、等々を点検し確認する。
しかし、プログラムの印刷をどうするか、得点表掲示の張り出しをどうするのか、案内の看板、など、まだ定まっておらず、まさにタイトロープ。
時間との勝負となった。
取り敢えず印刷は高橋龍夫氏をチーフとし、高橋明子氏と首藤紀子氏、酒井倭子氏の各女性委員が行うこととした。後にコピー機が不調、終了時は翌日の午前になってしまったと伺う。お疲れ様でした。
不詳の小生は得点表への掲示を担当、大きさが解らないので開催予定の会場へと直行する。幸い山形県主催の大会が開催されておりディレクターの庄子氏と逢う。当日の会場設営に労苦を少なくするように、「ネットとﾎﾞｰﾙはそのままに」とお願いし快諾を得た。一つづつ後顧の憂いが消えていく、役員全員がこの思いで頑張っていると確信しつつ帰路につく。
得点板を傷つけずに、分かり易く読み易く、雨にも風にも負けない掲示方法のアイデアを仙台に到着するまで出さなければならない。
「オット・・・赤信号」危ない、事故ったら迷惑をかけてしまう、冷静沈着にと心に命令する。
アイデアがまとまり、物品を購入した。
早速作業に取りかかるが遅々として進まず、妻が見かねて手伝ってくれた。未曾有のことである。
しかし、約束の時刻までは物理的に無理、見本を大賀延行氏に託し了解していただいた。
開会当日、峠を越すと雨。その後の天気がどうなるかとても心配した。
会場の到着時は既に設営が始まっていたが雨も止み、役目を果たすと”すうっと”肩が軽くなった。
設営中、いわきの女性の方から声がかかった。
「クラスの色は」？即座に「まだ洟垂れ小僧で参加できません」と応えた。すかさず「天覧試合を応援してね」と話された。とてもうれしかった。
覚えていただいてたのである。準備終了、急いで勤務先に戻る。
翌日、交歓試合。参加者の雰囲気が変わったように映ったが、寸分の狂いもない時刻 ⏲ に閉会式が開始される。
無事計画通り終了することができた。委員長をはじめ役員全員結集の成果、大成功であった。

☞ 混合ダブルス大会

受付開始と同時に雨、「またか！！！」急いで本部を移設するが機材は散乱する。幸い短時間に雨雲が通過してくれ開会式を行った。「ボールはどこ」、「オーダープレートはどうするの」、「どのコートで対戦するの」と矢のような催促と質問の声が聞こえる。役員が応じかねていると、参加自身がオーダプレートに名前を貼付したり、指定のコートに入ったり、と、１０分もしない間に競技を開始していただいた。おかげで、予定通り大会を終了することができた。
お手伝い下さった当日参加の方々、ありがとうございました。改めて御礼申し上げます。

☞ 対女子連定期戦

初回参加の体験だけでどのように対処したらいいのか見当もつかない。幹事の高橋龍夫氏、と、大賀延行氏にお願いし、選手として参加させていただいた。
対戦結果は僅差で当連盟の負け、残念であった。

❖ 駑馬十駕（どばじゅうが）

当連盟のスタッフはまさに稲麻竹葦の優れた方々、迂闊に委員を引き受けしましたがその背中を必死で追いかける現況です。

「驥（き）は一日にして十里、駑馬（のろい馬）も十駕すれば亦これに及ぶ」と言われ、こつこつと努力すればやがて追いつくと信じておりますが？？？。
皆様に楽しくプレーしていただけるよう努力いたしますので、なにとぞよろしくご指導ご鞭撻下さいますようお願い申し上げます。

♦東北マスターズテニス大会報告♦

山内　宏

今年度の東北マスターズテニス大会は、過去開催県を東北６県一巡し、今年二巡目に入って宮城県が主管し、雨天の場合の屋内コートの使用を考慮して会場を天童市にある山形県総合運動公園ﾃﾆｽｺｰﾄ(砂入人工芝ｺｰﾄ屋内4面、屋外8面)とし、10月7日、8日の両日にわたり当宮城県壮年テニス連盟の主管で開催されました。種目は、女子複65⁺,60⁺,55⁺,男子複70⁺,65⁺,60⁺の6種目で、試合方法は昨年までの県別対抗戦「個人戦＋団体戦」形式から「個人戦」形式となりました。各種目とも5～6組からなるﾌﾞﾛｯｸに分け、各ﾌﾞﾛｯｸ毎にﾗｳﾝﾄﾞﾛﾋﾞﾝ方式により順位を決め、1位、2位、3位にはそれぞれ金、銀、銅ﾒﾀﾞﾙが賞外の選手には敢闘賞が授与されました。

幸い当日は好天に恵まれ、(第1日目の午後は仙台は雨でしたが)、2日間とも予定よりも熱戦、接戦がつづいて試合時間が長くなりましたが、168名もの東北各地のﾃﾆｽ愛好者が相集い、お互いに技を競い合い、親善と交流を深めて無事終了しました。

この大会の県別参加数および大会でのﾒﾀﾞﾙ取得数は以下となりました。

	参加者数			ﾒﾀﾞﾙ取得数
	女子	男子	計	
青森県	13	14	27	16
岩手県	12	20	22	12
秋田県	7	13	20	10
山形県	8	10	18	8
福島県	15	20	35	26
宮城県	21	25	36	30
計	76	92	168	102

附記

大会前夜の監督会議で、来年の平成１０年度は青森県が主管することに決まりました。閉会式での青森県代表の挨拶では、９月中に開催し、会場は岩木山麓の岩木総合運動公園庭球場となる予定です。また、閉会式では、最高齢者参加賞が岩手県の高橋和歌さん（大正８年生）および宮城県の岩月賢一さん（大正２年生）に授与されました。

※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※

♦東北マスターズテニス大会に参加して♦

北畠　さと

８年余りもテニスの楽しみから遠離っていましたが、病気も癒えたさくねん、ねんりんピックに出場できたことを皮切りに、幾度か他所へ出かけてプレー出来る幸運に恵まれ、テニスの楽しさを思い起こしていた矢先に、天童での標記の大会に参加が決まり、大きな喜びを体験出来たことに感謝の念でいっぱいです。

雨が降っても影響が無いようにと、大会は屋内コートも使用して行われました。実際に大会の２日間はにわか雨があったので、改めて屋内コートの良さが感じられましたし、同時に、宮城県にはこのような施設の無いことが残念にも思えました。

試合数が多くて楽しみも多かったのですが、それだけに役員の方のご苦労ぶりもうかがうことができました。とくに、他県の会場での大会だったので、期間中の運営はもちろんのこと、事前の準備なども大変だったのではないかとお察ししているところです。中でも、試合に出ないのに３日間もご奉仕するだけに参加された方々には頭の下がるばかりです。（私も少しはお手伝をしなければと思っていますが、実際には無理なので、大会に参加している期間中だけでもと心掛けているつもりです）

私個人の戦績は芳しいものではありませんでしたし、これまでの対外試合の結果もみじめなものでした。しかし、勝敗だけがすべてではないはずで、他県の方々との交流や上手な方とのゲームは楽しく、意図したプレーが出来たときは大変嬉しくおもいました。ただ、ゲームにはルール上でのトラブルが少なくないようで、幾度かその場面を見て考えさせられ、ルールの勉強も大切だと感じています。とくに、今回は私自身もトラブルを体験することになり、大いに疑問を抱きながらも不利（結果的には誤りの）判定を容認せざるを得なかったことは、残念でもあり、反省もしているところです。

お陰様で仲間にも恵まれ、最大の楽しみの一つでもあるテニスを長く続けられることが確信できるようになりました。そのためには技術を磨かなければと、初心に戻って練習に励むことや、仲間として疎まれることのないように心掛けるつもりなので、これからも長いお付き会いのほどよろしくお願いもうしあげます。

※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※

♦室内ダブルスを楽しむ会♦ 開催のお知らせ

平成１０年度行事の皮切りとして恒例の室内ダブルスを楽しむ会を開催いたします。ｷﾘﾝSCのご好意によりPART ⅠとPART Ⅱの2回にわたる開催となります。期日は下記の通りです。いずれの回も参加人員を36名に限定させていただきます。会費は2500円/人です。新しい企画とお楽しみ賞も用意される予定です。先着順で締め切らせていただきます。氏名(連名可)およびPART ⅠまたはⅡ(双方も可)を明記し、ハガキまたはFAXで今　直ぐ　事務局まで申し込んで下さい。

期日：PART Ⅰ：1月15日(祝日)
　　PART Ⅱ：2月11日(祝日)
時間：9：30～17：30
会場：キリン広丁室内コート

連盟事務局のFAX番号は電話と同じ 229-1145 です。
新しい郵便番号は 982-0821 です。

♦高齢者生きがい健康祭♦

長田　輝夫

高齢者が心身ともに明るく、健康な生活を維持することを目的とした、第１回仙台市高齢者生きがい健康祭テニス交流大会が１１月３日（月）泉総合運動場テニスコートに於いて開催されました。開会式に岩月賢一様が最高齢者賞の表彰を受けられ競技開始となりました。競技は、午前９時から午後２時までの間、男子６４歳以上７組、女子５９歳以上５組、男子５９歳以上６組、総数１８組の参加があり、各クラス毎にラウンドロビン方式の対戦で、全組等しく４試合が行われました。

各クラスの優勝者は、

男子６４歳以上　本間満雄・山本忠　組

女子５９歳以上　本間和子・斎藤久仁子　組

男子５９歳以上　高橋龍夫・山内宏　組

の方々で、第３位までの入賞者には賞状とメダルが授与されました。

大会の内容等は、

申込先　仙台市健康福祉局高齢部高齢者企画課生きがい健康係

申込書　健康調査表（ご本人とご家族の署名）参加申込書（パートナーの氏名連記）

参加資格　年齢制限なし

定　員　高年齢順に定員となり次第締め切る

参加料　無料

と、以上の通りでした。

この大会は、次年度愛知県で開催される全国健康福祉祭（ねんりんピック）へ仙台市を代表する選手の選考会も兼ねていて、今年度は、仙台市テニス協会が仙台市健康福祉局高齢部より委嘱を受け競技運営面に携わりました。

初めてのことで、不行き届きがあり、参加の皆様にはご迷惑をおかけしたことを、お詫び申し上げます。

次年度は、泉総合運動場を会場として、９月１９日（土）か９月２０（日）の線で調整しています。

”生きがい創り”をテーマと掲げたこの大会、今後とも高齢者の方の健康維持を支援し、お役に立てればと思います。平成１０年２月には今回の反省を兼ねた会議がありますので、皆さんのご意見やご要望を市当局の窓口、又は、仙台市テニス協会事務局宛お寄せいただければ幸いです。

♦第一回グランドシニア大会に参加して♦

桜井　ノリエ

１０月２日から４日まで名古屋市東山公園テニスセンターに於いて全日本グラントシニア選手権大会がありました。第一回ということなので参加してみようと今野ミチさんと私が６５歳女子の部に参加しました。結果は、予選通過ならず一日だけの参加となりました。７０歳男子の部に、小野泰祐さんと福島県いわき市の安部順吉さん、８０歳の部には、岩月賢一さん、新藤英雄さんが参加されました。日程の都合で岩月さん方の応援は出来ませんでしたが大変活躍されたようです。回を重ねるごとに参加者も多くなると思いますが、６５歳女子は１４組と、全国からの参加にしては大変少ない参加人数だと思いました。

他の大会で見かけた方も多く、それなりに楽しんでまいりました。限られた時間の中で、名古屋城と徳川美術館を駆け足で見てきました。

これから何年テニスが出来るのかわかりませんが、下手でもテニスが出来たからこのような大会に参加出来たのだと喜んでおります。これからも皆さんに迷惑をかけながらテニスを楽しみたいと思っております。

最後に、名古屋には公営の室内コートが４面ありました。東北最大の都市仙台にもこのような公営の室内コートがあったらと思いました。

※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※

♦ねんりんピック'97 山形　に参加して♦

大和田　章子

第１０回全国健康福祉祭山形大会が、９月２０日～２３日まで「すてきに輝け　ねんりん青春」をテーマに山形県下１３市６町で開催されました。２０日は天童市総合運動公園で総合開会式典があり、　２１日～２２日とテニスは酒田市に移動し、松林に囲まれた市営光ケ丘コート１０面、国体記念コート８面で、６０チーム４８０人参加で予選リーグ、決勝トーナメントと行われました。

開会式は、式典前のアトラクション、入場行進、沖縄から北海道まで５９都市が順を追って入場行進、壮大さに感動しました。そして次の日の肝心なテニス、ボーとしているうちに終わってしまった様で、皆様には大変ご迷惑をかけてしまいました。

思いもよらず、この様な大会に参加出来たこと、本当にありがとうございました。

◆長ラケットを使って◆

本間満雄

昨年あたりからだろうか？　従来のラケットより１～２インチ長いラケットが売り出された。私は特にそれを使って見ようと言う気は無かったのだが、Ｎさんがこれを使ってごらんと長・デカラケを貸してくれた。張りはゆるくて４２ポンド（今までは普通のデカラケを５５ポンドで張ってもらっていたのだが）、しかもストリング面が大きいので、普通のガット１巻では足りず上と下が２～３本抜けているものだった。重さは２８０ｇで軽い。試しに使って見ると飛び過ぎる。それにボールを打った時の音がすごい。ボヨヨー～ンと、何とも言えない響きを残してボールがバックラインのずっと先に飛んで行ってしまう。これは駄目だとお返ししようかと思ったら、しばらく使っていて良いよと言われた。ボールが飛ぶのと、不思議な音が出るのはガットがゆるいせいもあるかも知れない。折角なのでしばらく使わせてもらおうと、その後コートに行くたびにそれを使っていたら、１週間位ですっかり慣れてボールがオーバーしなくなり、奇妙と思った打球音も心地よい響きに聞こえるようになって来た。それに、今まで抜かれているようなロブに届くような気がし、又すごいアングルに打ち込まれた時、ボールにやっと追いついてラケットを出しただけでうまく返球出来るような感じだ。浅いロブが来てチャンスボールとスマッシュの構えをした時、相手２人がベースラインまで下がったのを見てロブのボールにラケットをチョコンと当てるだけでボールがネットのすぐそばにポトンと入る。前のラケットで同じ打ち方をすると、ネットの手前に落ちてしまうことが多い。ボールのスピードも出せるように感じる。７月末に岩木山総合運動場で行われた東北ベテランテニス選手権大会にそのラケットを持って出場して見た。パートナーにも恵まれて、ボヨヨー～ンの音と共にボレー・スマッシュが良く決まり、何と関東、東海からのベテランを破って６５歳ダブルスで優勝してしまった。相手の話では、あの音でどんな球が来るのかとびっくりしてしまった、とのことだ。ある人から、そのうち音の出るラケットは使用禁止になるぞと冗談を言われた。この勝利に気を良くして、すぐに同じラケットを１本買った。ガットも４０ポンドとゆるく張ってもらって。そして待望の全日本ベテランテニス選手権大会にそれを持って参加した。さすが全日本はそんなに甘くなく１回戦で敗退してしまったが、フルセットまで持込み、長・デカ・ゆるラケの手答えは充分にあった。その後、鈴鹿での日本シニアテニス連盟全国大会にもこのラケットを持って参加したら、パートナーの活躍に支えられたことが大きかったが、これにも６５歳クラスで優勝出来た。

どうして最近になって長ラケが各メーカーから発売されるようになったのだろうか？　ラケットの大きさを規定しているテニスのルールが改正されたからだとの話しも聞いたので、これは、今までのものより長いラケットが使えるようなルールになったのだなと思い、日本テニス協会発行の「コートの友」（テニスルール・ハンドブック）９７年版を調べて見た。（規則４）ラケットの条項の中で「ラケットのフレームは、ハンドルを含め、全長で 73.66cm、全幅で 31.75cmを越えてはならない。」と規定されている。我が長・デカラケの寸法を計ってみると、長さが 73.3cm　幅が 30.8cmで、ほゞ規定の最大寸法になっている。従来のデカラケの寸法はどうかと言うと、長さが 68.5cm 幅が 26.8cm であった。確かに長ラケは 4.8cm（約1.9インチ）長くなっている。それでは昔の規定はラケットの長さを 68cm 位にしてあったのかなと独り決めしたが、念の為古い「コートの友」９３年版を開いて見てびっくりした。「全長で 81.28cm　幅で 31.75cmを越えてはならない。」となっているではないか！。　即ちルール改正は長いラケットを使えるようにしたのではなく、長いラケットを使えないようにしたのだ。只、今迄は長さ81cmといった長いラケットが一般に作られていなかっただけのようである。そう言えば最近の男子プロテニス選手の試合を見ていると、スピードサーブでゲームが決まってしまい面白く無い、長いラケットを使えばますますサーブのスピードが増してゲームの興をそぐので、あまり長いラケットは使わせないようにする、との話しも聞いたことがある。昔は長くて大きなラケットを大量に、軽く、丈夫に作る材料も技術もなかったが、今はそれが出来るようになってきたのだろう。

ちなみに、ラケットの大きさについては、１９８０年までは全く制限が無かったが、１９８１年に国際テニス連盟規則の第４条「ラケット」の項が改正

されて、全長32インチ（81.28cm）全幅 12.5インチ（31.75cm）以内と制限がつけられたとのことだ。

長・デカ・ゆるラケをつかっていたら前のラケットは使えなくなるのではないかと思ったが、練習の時使ってみると最初の2～3球は飛ばずにネッにかかったりするが、直ぐに前と同じように打てるようになる。人間の順応性は素晴らしいものだ。

ところで、私の使っている長・デカラケのメーカーでは1本張るのに必要な長さの専用ガットを出している。最初それを張ってもらったが割高で、切れ易い感じもした。最初のが切れて張り直しの時、ためしに長尺がある「ゴーセン ミクロII 1.35mm」を使って40ポンドで張って貰った。これは確かに安くて丈夫のようだ。2ケ月使った今も安泰である。しかし、あの懐かしいボヨヨー～ンと言う打球の響きは無くなって、ボヨンで終わりである。反発力が少し落ちる為のようである。

長・デカラケを使って見て、ラケットの選択もさることながら、張りの強さも非常に影響することが分かった。と言うより個人個人それぞれに最適なテンションがあるのでいくつかの張り強さで試して見て自分に合ったものを見付け出すことの必要性を感じた。

Nさんが又、最新のラケットを持ってきて「これを使ってごらん」と貸してくれるまでは、私はきっとこの長・デカラケをゆるく張って使い続けていることだろう。

※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※

♦ ねんりんピック'97山形大会に出場して ♦

北野　寿一

何処で人選のミスがあったのか。私が仙台市の代表選手の一人に選ばれたのである。冬はスキーだといってはさぼり、春は花粉症でくしゃみの連続、とてもテニスをする体調でなく、夏は山だ！、釣りだ！とさわいでいるのに一体いつテニスをするのやら。元々テニスはスキーや登山のトレーニングとうそぶく誠に不謹慎なプレーヤーである。

ああ！しかし、選ばれたからにはパートナーに少しでも迷惑をかけないようにと、泥縄とは知りつつも日頃不熱心な自分に鞭打って練習に打ち込むこと三ケ月間。と言っても半日プレーするだけで直ぐにダウン、肘は痛くなるわ、膝はガクガクするわと体力不足を痛感する毎日。しかし、やはり熱心に練習すればその成果はあるもので、「北野さんのフォアのストロークが速くなったね」と誉められ、「豚もおだてりゃ木に登る」の諺通りだと悦にいる。

いよいよ9月20日大会の日が来た。開会式は天童市の総合運動公園で行われた。60チームの選手入場が延々と続く。天候は雲一つない秋晴れ。「燦々　奥の細道　やまがた」とテーマに繰り広げられるマスゲームに山形県民の熱意がひしひしと伝わって来る。

最後は賑やかにグランドを埋め尽くす花笠音頭をフィナーレにテニス種目選手は一路庄内へ。夕日が赤々と輝く鳥海山が車窓から見えるころ、酒田市郊外の高台に建つ「かんぽの宿」に到着。オープンが今年の8月ということで総ての施設が新しく気持ち良い。

翌21日、いよいよ予選リーグの日。宮城県代表選手は当宿にあるテニスコートで朝食前に早朝練習とすごいハッスル振り。我が仙台市チームは疲れないようにとゆっくり朝風呂。試合が始まる前に80歳以上の高齢者選手の表彰（我仙台市チームの新藤監督も表彰される）、選手平均年齢の最高チームは何と宮城県チームで全員表彰され、最後に夫婦での出場選手表彰とほのぼのとした表彰式が行われた。

さて、予選リーグは高知、京都、北海道と仙台の4チーム。高知チームは声が大きく、色も真黒といかにも強そう。やはり予想通り高知が全勝で1位、あと3チームは何れも1勝2敗。勝ち負けのゲーム差で京都と仙台が同率2位で北海道が4位。しかし我がチームは京都に敗れているので、結局3位。（内心喜ぶ？）

最後の22日は決勝トーナメント。3位グループでの上位入賞を目指したが、相手は来年の主催地名古屋市の強豪チーム。善戦むなしく惜敗した。新藤監督、丸山さん、有賀さん、女性ペアの坂爪さん、大和田さん本当にご苦労様でした。皆さん、人柄は超一級の人達ばかりで、本当に和気あいあいの楽しいテニス大会でした。また、最後まで熱心に応援していただいた仙台市役所職員の中村さんにも改めてお礼申し上げます。

※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※

編集後記：本号にも沢山のご寄稿ありがとうございました。予定しておりました記事の中で、平成9年度行事結果報告、皆さんの活躍の記録「戦績表」、「此頃一寸気になる話」や「JTAニュース」の紹介、特に大切な「平成9年度決算書」および「平成10年度予算書」の掲載が次号に持ち越されます。ご容赦下さい。寒風ふきすさぶ中で鼻水をカミながら、涙をフキながらそれでもコリずにテニスをしていますと、皆さんが書いておられるように当宮城県にも公営の室内テニスコートが欲しいと痛切に感じます。寅歳に肖って連盟ともども飛躍をしてみようではありませんか。よいお年をお迎え下さい。

※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※
※ 編集発行　宮城県壮年テニス連盟運営委員会 ※
※ 事務局　[illegible] ※
※　　※
※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※